

## 地域を建設する人間育成のあり方を探る その3

### 富山県“総合教育開発計画”における指導について 関係者へのインタビュー調査 (2009年5月/8月)

#### 全国に先駆けた富山県の総合開発計画

[1950年](#) (昭和25年) に制定された国土総合開発法に基づいて、各地(県)で地域総合開発計画の推進がなされたが、1952年、富山県は全国に先駆けて、教育計画を含んだ体系的で緻密かつ膨大な第一次計画を策定した。この教育計画は、学校教育と社会教育を総合させたばかりでなく、県政全般の行政施策と一体的・総合的に作成した画期的なもので、その策定の指導に当たったのが、当時国立教育研究所員であった矢口新\*であった。矢口は、新しく建設していく社会は産業社会と位置づけ、産業社会の中で主体的に生きていく人間の能力を育てる教育のあり方を構想し、設計した。

今年度“矢口新の教育”研究班では、この富山県の総合開発計画における教育計画を検証するとともに、地域を建設する人間育成のあり方を探るため、関係者へのインタビュー調査と文献収集を行った。

第1回インタビュー：5月2日 盛野成信氏 (元富山県立二上工業高等学校校長)

米島秀次氏 (元富山県総合教育センター所長)

第2回インタビュー：8月6日 加賀谷新作氏 (元富山県科学教育センター所長)

盛野成信氏、米島秀次氏同席

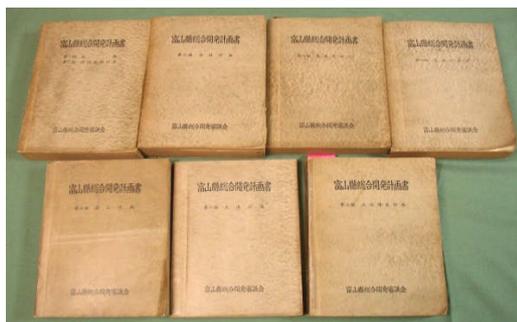
なお、盛野、米島両氏には文献収集においても多大な協力をいただいている。次ページは、現段階における“総合教育開発計画”に対する研究班の認識と、これからの調査の方向である。



米島氏 盛野氏



加賀谷氏



総合開発計画 第一次の計画書7冊



総合開発に関する各種資料や矢口新の著作

## 富山県総合開発計画における“教育計画”

### 県独自の総合開発計画－第一次計画

富山県では、国土総合開発法制定の前年の1949年11月、県政の指針となるべき総合的な計画の策定が副知事直属のプロジェクトとしてスタートしている。当時は敗戦からの復興期で、復員引揚者の援護処理や富山市の戦災復興、供米、水害復旧などに追われていたが、食糧自給や産業振興をはかり県民の生活のレベルを上げるためには、そうした対症療法的行政から脱し、行財政・農業・漁業・教育・労働などに関わる諸制度の改革や長期的展望をもった計画的対応が必要だと考えられたのである。

当時中央官庁は、総合開発計画策定に対しては何の指針も出さなければ、モデルも提示しなかったという。まさしく地域主体の創造的計画だったと考えてよいだろう。1952年第一次計画を国土総合開発法の府県計画として監督官庁に提出したときも、何の関心も示さなかったそうだが、府県レベルでは関心が高く、多くの県の担当者が富山に視察に来たという。

### 総合計画の中における教育計画

富山県の総合計画の特徴の一つは、教育計画が大きく位置づけられているということである。国の取り組みである全国総合開発計画の第1次計画が出たのは1962年であるが、これは物質的な国土造り計画で、雇用・教育・衛生・福祉などの对人的施策が含まれていないものであった。富山の総合開発計画は、その10年も前のことである。総合開発計画の以前から、教育の総合的長期計画を策定すべきではないかと議論していたという教育委員会が、優秀な人材を集めてチームをつくり、大いなる情熱とエネルギーをかけて計画の策定・実現に取り組み、第一次計画で策定された「産業教育館」（地域社会や学校に対して、地域の課題を調査研究しカリキュラム作成等のための資料を提供するサービスセンターであり、児童生徒が産業社会の実態に触れるための設備を備えた共同実習場でもある）は、早くも計画策定の翌年1953年4月から富山、高岡で発足させている。

### 教育計画の理念

この富山県の教育計画の土台作り・理念の構築に大きく関わったのが矢口新であった。当初、一介の調査員として招聘された矢口であったが、その考え方と方法論が教育委員会の人々の心をとらえ、やがて矢口の指導の下に本格的な調査が展開され、それに基づいた教育計画が策定されていった。矢口は第一次～第三次計画まで深く関わったが、特に注目すべきは、後の計画の土台ともなる第一次計画であると考ええる。

策定に携わった竹長敏夫氏（元富山県教育委員会企画調査室）は、一次計画を「産業社会を生き抜く人間の一生を考えた生涯教育計画」と位置づけている。矢口の基本思想は「人々が、働く場において自らが主体となって活動する能力を育てる」というところにある。農村社会の青少年や、都市部における勤労青少年の実態調査を手がけてきた矢口は、基本的に人間の存在を「働く人」「地域で生活する人」としてとらえており、「これからの社会は産業社会、全ての人が産業社会の中で生活する。その中で仕事をする人としてのセンス（生産・流通・販売・消費に対する）を育てる機能を教育にもたせるべきだ」という理念のもとに、教育計画を策定したのである。

### 地域に生きる人材を、地域で育てる

- ・ 産業界との人事交流を重視すること
- ・ 産業教育のための教育を量・質の両面において確保するため、大学各部との連携を強化すること

教育計画には、上記のような条項がある。また事前に行った大学に対する調査には、「地域性」や「産業研究に必要な施設設備をもっているか」といった項目が見られ、産学協同をも視野に入れた、地域に生きる人材を地域で育てる大きな構想があったことが推測できる。後に、県財政の問題や、国の施策とのずれ、高度経済成長時代以降に生まれた「ホワイトカラー・普通科志向」の広がりによって、すこしずつ方向修正を余儀なくされたのであるが、この「教育の産業性」という矢口の視点に基づいた富山県総合教育計画は、人間が社会の中でいきいきと生きるための教育および教育行政のあり方を構想したものであり、人間尊重を基とした戦後教育改革の理念を最も体現していたものではなかったか、という思いを研究班一同は強くした。

研究班：越川，金馬，小澤，榊，矢口

JADEC ニュース80号（2010/3）より